

ラスコート商品・仕上げ施工の注意とお願い

- このたびは、東洋エクステリア製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
- 正しく施工、組付けをしていただくために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。

警告

- 「ラスコート商品・仕上げ施工の注意とお願い」に記載した内容に従って施工をしてください。施工を誤ると表面材の剥離や落下で死亡やけがに至るおそれがあります。

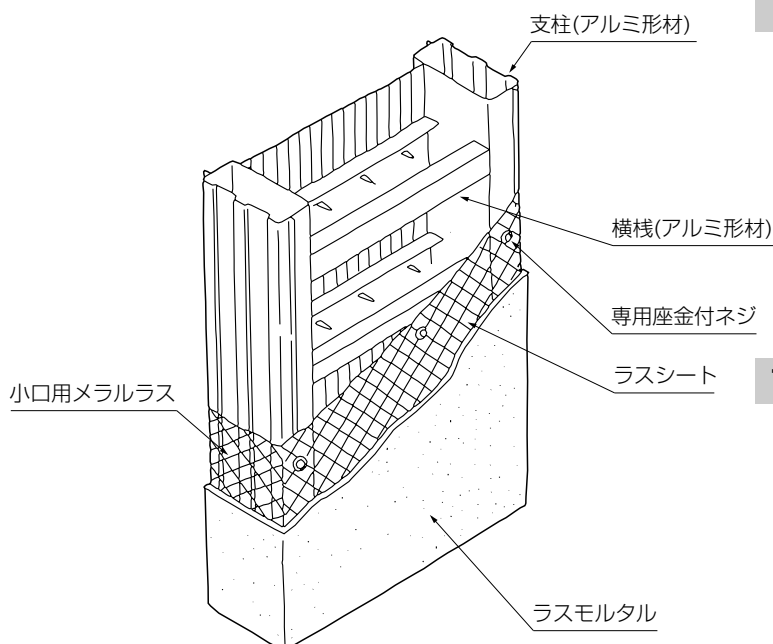
注意

- 正しく施工・仕上げをしていただくため、施工前に必ず「ラスコート商品・仕上げ施工の注意とお願い」および商品の取付説明書をお読みください。
- 仕上げ施工前にラスコート商品の下地について現物を確認してください。さらに平滑な下地を必要とする塗材については下地調整が必要です。(P2.「2.建築用仕上塗材で仕上げる場合」参照)

目次

1. 下地について.....1	4. タイル以外の張りもので仕上げる場合.....5
1-1 下地概要と材料選定について.....1	4-1 材料.....5
1-2 出荷時の下地粗さについて.....1	4-2 施工制限について.....5
2. 建築用仕上塗材で仕上げる場合.....2	5. 取扱いについて.....7
2-1 材料について.....2	5-1 下地.....7
2-2 下地調整について.....2	
3. タイルで仕上げる場合.....2	
3-1 全面に施工できるタイル.....2	
3-2 タイル施工法について.....3	
3-3 シャッター前面パネルの再下段の施工について.....3	
3-4 施工制限を受けるタイルについて.....4	

1. 下地について



1-1 下地概要と材料選定について

ラスコート商品の下地は角波垂鉛鉄板にメタルラスを溶接したラスシート上にラスモルタルを施したものです。

ラスモルタルについては一般的な「木造壁用ラスモルタル」と同様ですので、仕上げ材料やプライマー、溶着剤を選定する場合は「木造壁用ラスモルタル」対応品としてください。

1-2 出荷時の下地粗さについて

出荷時のラスモルタル表面は粗仕上げ程度になっています。

タイルなどの張りの施工はそのまま使用できますが、塗装仕上げの場合は、むら直しや上塗りの下地調整が必要になります。なお、コテ塗りなどの厚付塗材仕上げは除きます。

2. 建築用仕上塗材で仕上げる場合 ※塗装仕上げの場合

2-1 材料について

建築用仕上塗材 (JIS A 6909) の外装材に準じるものを使用してください。
また、材料の施工説明書に従って必要であれば指定のプライマーや下地調整を行なってください。

2-2 下地調整について

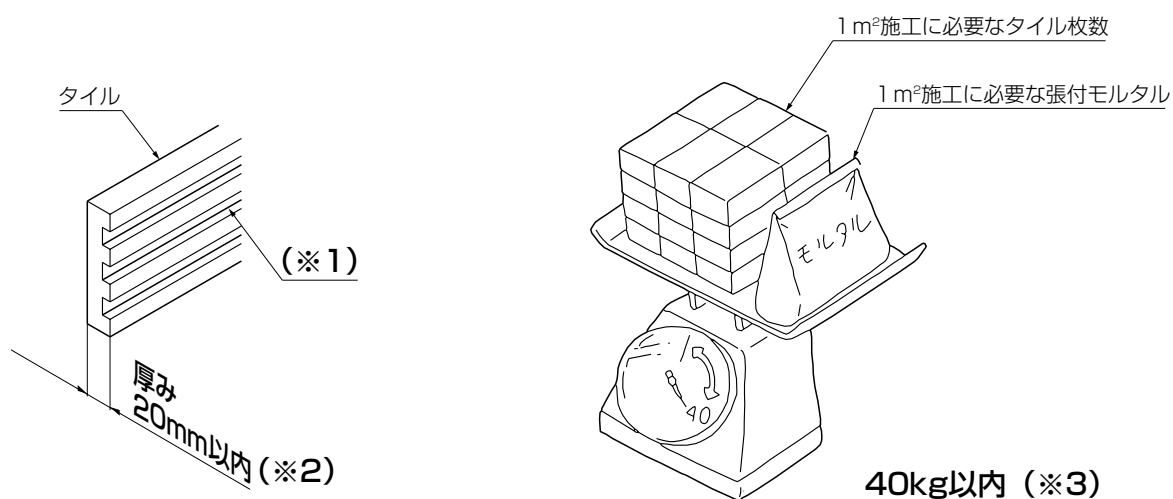
むら直しや上塗りの下地調整を行ってください。
下地調整材は、仕上げ塗材の仕様書に従って選定・施工・養生を行ってください。
尚、コテ塗りなど下地むらが表面に出ない厚付塗材は下地調整が不要です。

ポイント

- 溶剤系塗材の使用は可能ですが、環境に関する条例等で制限を受ける地域がありますので注意してください。
- 施工方法や施工温度、材料の有効期限については使用する材料の施工説明書に従って施工してください。
- 下地モルタル面以外は材料が付着しないよう、マスキングや養生シートで覆ってください。
- 地際部分は巾木を使用してください。巾木は商品に同梱しています。それぞれの弊社取付説明書に従って巾木を取付けてください。
- 仕上げ材料が十分硬化するまで躯体に振動や衝撃を与えないでください。

3. タイルで仕上げる場合

3-1 全面に施工できるタイル

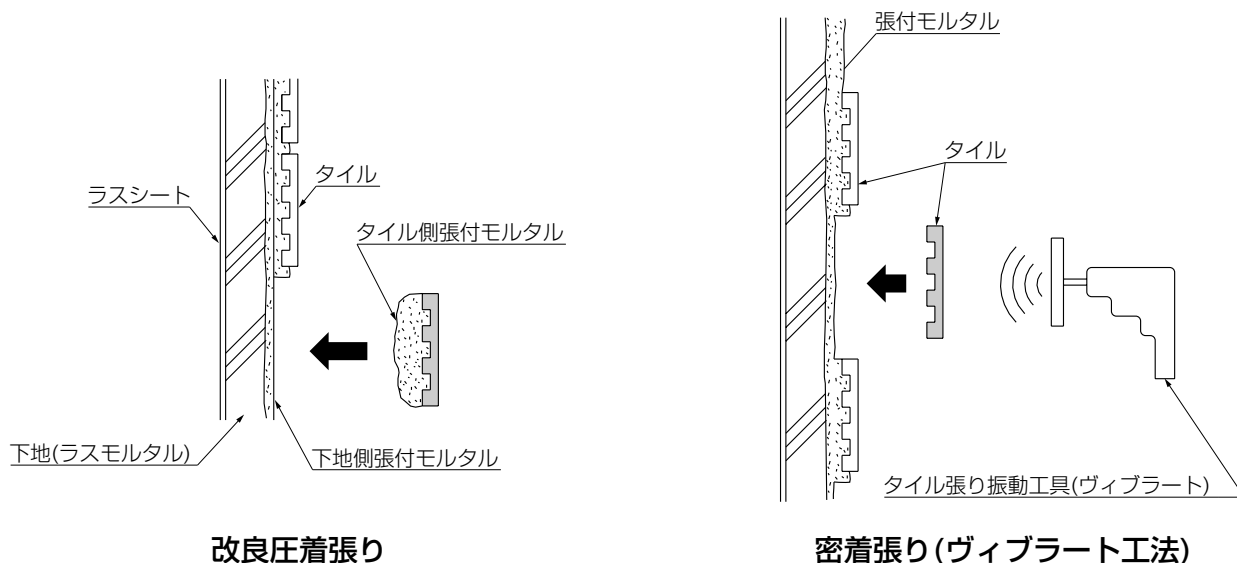


- ① タイルで仕上げる場合は、下地面全面に施工できるタイルとして、外装タイルで二丁掛け以下の裏足付き(※1)のもので、厚み20mm以下(※2)または1㎡あたりのタイル重量と貼付モルタルの重量の合計が40kg以内(※3)のものを使用してください。

補足

- それ以上の厚さや重量のタイルは施工制限を設けています。(詳細はP4参照)

3-2 タイル施工法について ※〈改良圧着張り〉または〈密着張り(ヴィブラート工法)〉で施工してください。



改良圧着張り

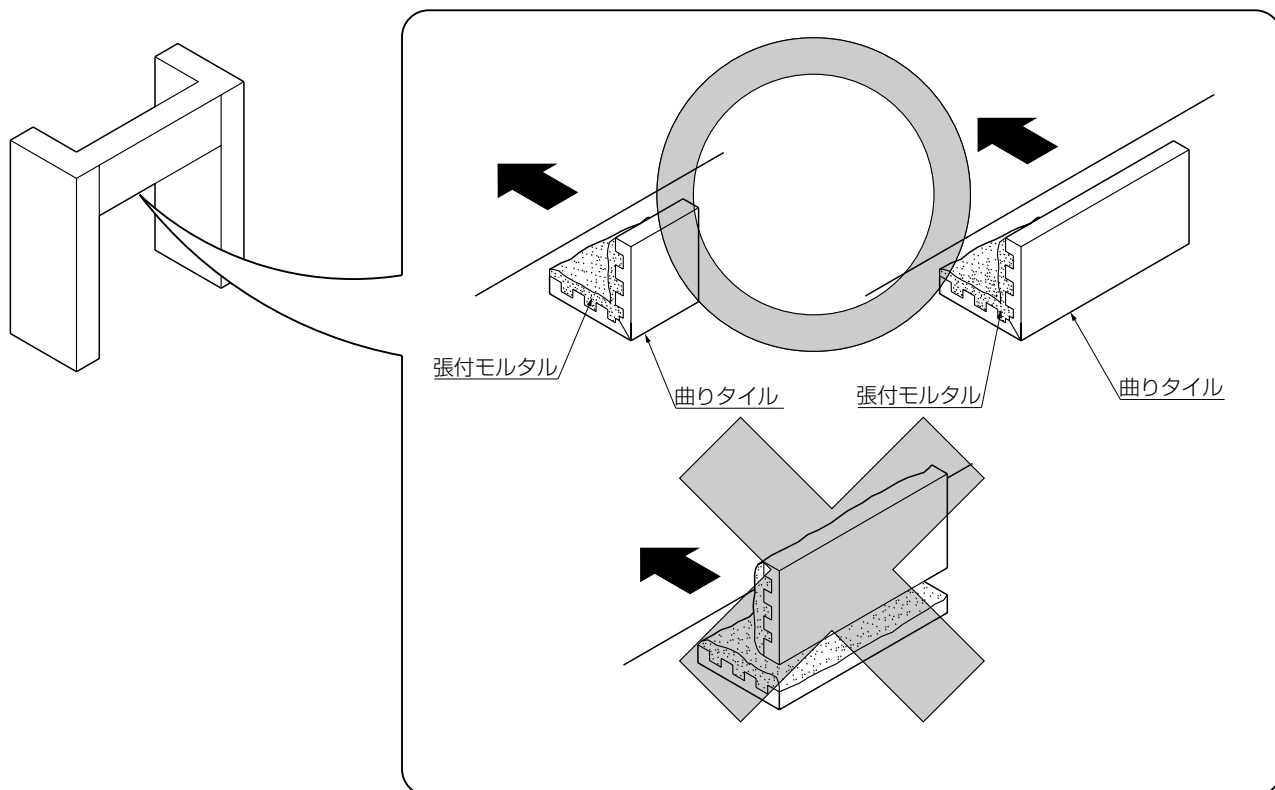
密着張り(ヴィブラート工法)

注意

- シャッター前面パネルの左右両端の接合部はエキスパンション部とし、上下とおしの変成シリコーン目地をとってください。接合部にタイルがまたがった場合、タイル割れの原因になります。

3-3 シャッター前面パネル再下段の施工について

※シャッター前面パネルの再下段の施工で前面パネル下面までタイルを張る場合は曲りタイルを使用してください。



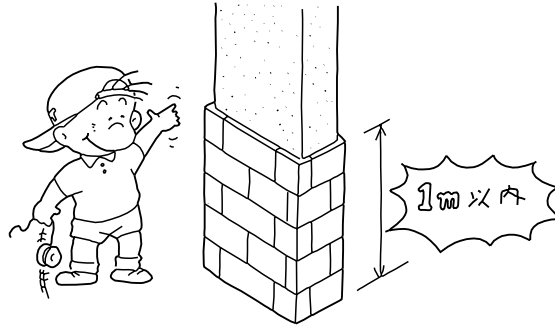
注意

- 平タイルだけの前面パネル下面への施工は、タイル落下の危険がありますので行なわないでください。

3. つづき

3-4 施工制限を受けるタイルについて

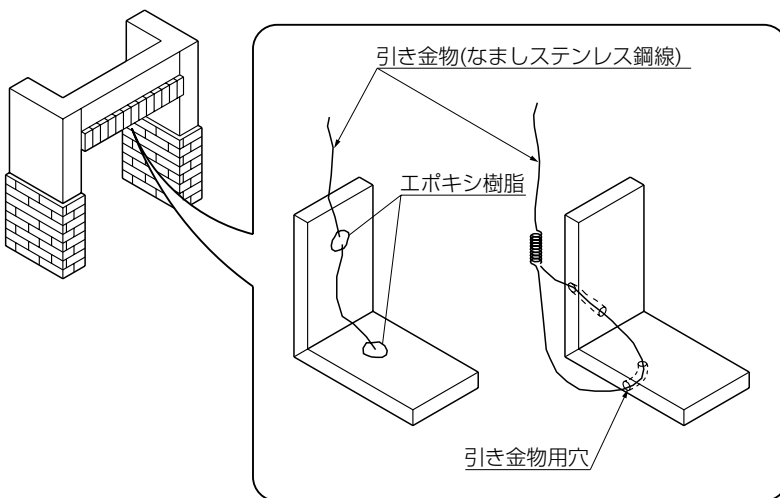
全面施工できるタイル(P2, 3-1項参照)以上の厚さ21mm以上または1m²あたりのタイル重量と貼付モルタルの重量合計が41kg以上のタイルは、張付け高さをG.L上1m以内にするという施工制限を設けます。



補足

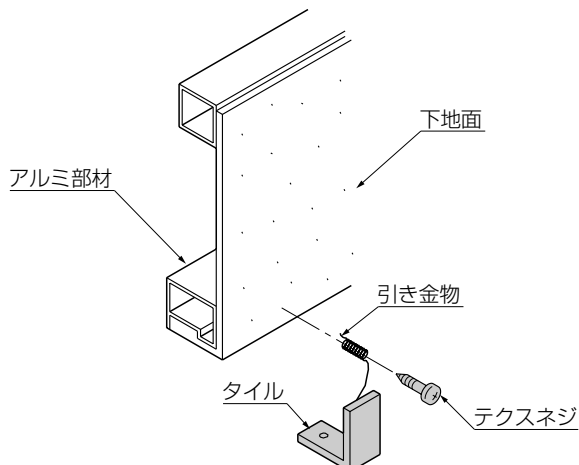
- 張付け高さ1mを超える場合は0.6mm径以上のなましステンレス鋼線の引き金物を使用し、すべてのタイルそれぞれに落下防止策を施してください。

(1) 引き金物の取付け方法



- ① 特に危険が予想される出入口部にあたる前面パネル下部を例に説明しますが、タイル裏面に0.6mm径以上のなましステンレス鋼線をエポキシ樹脂で接着するか直接穴をあけて取付けてください。これは、建築工事共通仕様書によるものです。

(2) 引き金物の躯体への取付け方法



- ② 引き金物は、アルミ部材部にテクスネジを打ち、固定してください。

⚠ 注意

- 外装タイル用の「タイル張付けモルタル」で施工してください。有機質接着剤は使用できません。
- 「タイル張付けモルタル」の施工湿度や有効期限は、使用する材料の施工説明書に従ってください。特に寒冷期（5°以下を目安とします）の施工は十分注意してください。
- シャッター搭載商品で、タイル施工後にシャッターを取付ける場合は、タイル張付けモルタルが十分硬化してから行なってください。また、シャッター取付け以外でもタイル張付けモルタルが硬化するまでは、タイル張り面や躯体に振動や衝撃を与えないでください。

🔑 ポイント

- タイル張付け工事は、使用する「タイル張付けモルタル」の施工説明書に従って下地処理（プライマーや水湿し、および吸水調整処理）を行なってください。
- 吸水性のあるタイルには、必要に応じて適度の水湿しを行なってください。
- タイル施工後の清掃で、汚れを取り除くため、やむを得ず酸類を用いる場合は、清掃後に十分水洗いを行ない、酸が残らないようにしてください。また、アルミ型材や金具等にかからないように養生してください。
なお、酸類による清掃はタイルに限定してください。タイル以外のものに酸類を使用すると変色等の原因になります。
- その他、下地寸法やコーキング位置等は、弊社の取付説明書に従ってください。

4. タイル以外の張りもので仕上げる場合

4-1 材料

施工できるもの

- 外装用セメント系ブリック
- 外装用セメント系擬石
- 外装用スライスレンガ

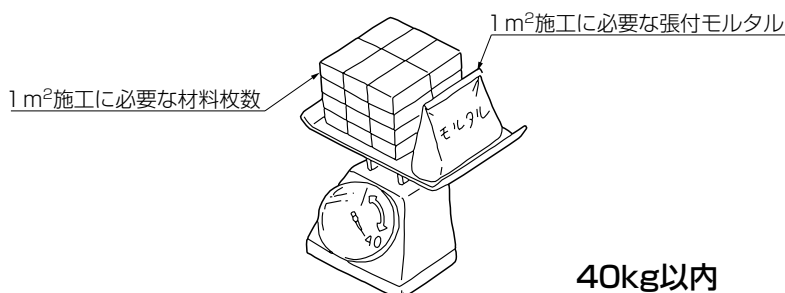
施工できないもの

- 天然石材(大理石、みかげ石等)
- セラミック(陶板)
- 外装壁材以外のもの。(内装材および床材等)
- モルタル下地に施工できないもの。

4-2 施工制限について

(1) 全面に施工できるもの

- 上記の「施工できるもの」内の材料で下地全面に施工できるものは1m²あたり、仕上げ材の重量と張付けモルタルの重量合計が40kg以下のものです。



4. つづき

(2) 1m²あたり仕上げ材の重量と張付けモルタルの重量合計が41kg以上の場合

- ① 張付け高さをG.L上1m以内で施工してください。また、1mを超える場合は0.6mm径以上のなましステンレス鋼線の引き金物を使用し、落下防止策を施してください。引き金物の取付や躯体への取付けはP4の 3-4 と同じです。

⚠ 注意

- ① 施工する仕上げ材の施工説明書に従って、施工を行なってください。
特に下の□内の項目は十分確認してください。

下地処理
張付けモルタルの種類（指定があれば指定材を使用してください。）
施工方法
目地仕上げ
シーラーおよび吸水防止材の施工

- 張付け工事では使用する材料の施工説明書に従ってください。特に焼成タイルとちがいセメント系ブリックや擬石、スライスレンガは吸水が大きいため、水湿しや吸水防止剤となるプライマーなどで処置をしてドライアウトによる剥離が発生しないように注意してください。
- 張付け施工時の湿度や張付けモルタルの有効期限は、使用する材料の施工説明書に従ってください。特に寒冷期(5°以下を目安とします)の施工には十分注意してください。
- シャッター搭載商品で仕上げ材施工後にシャッターを取付ける場合は張付けモルタルが十分硬化してから行ってください。また、シャッター取付け以外でも張付けモルタルが硬化するまでは仕上げ材張付面や躯体に振動や衝撃を与えないでください。

🔑 ポイント

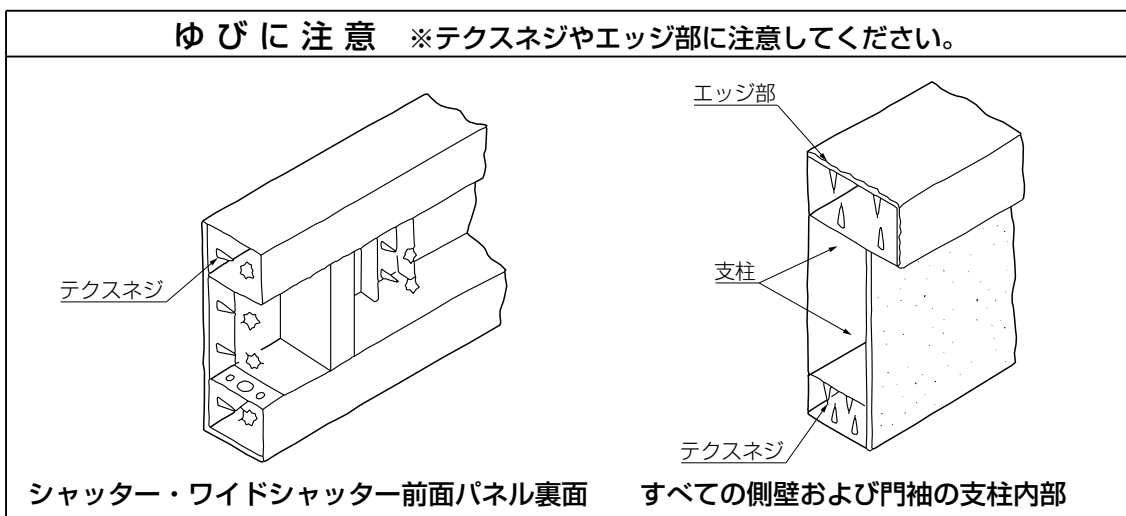
- ② 仕上げ材の厚さはセメント系の場合、骨材の比重により変化しますので規定していません。
細部の納まりは弊社の取付説明書をご覧ください。
- 使用する仕上げ材料独自に施工制限(出入口や天井面等)を設けている場合は、その施工制限に従ってください。
- 清掃では、酸類を使用しないでください。変色等の原因になります。
汚れた場合は、すみやかに水洗いをしてください。
- その他、下地寸法やコーキング位置等は弊社の取付説明書に従ってください。

5. 取扱いについて

⚠ 注意

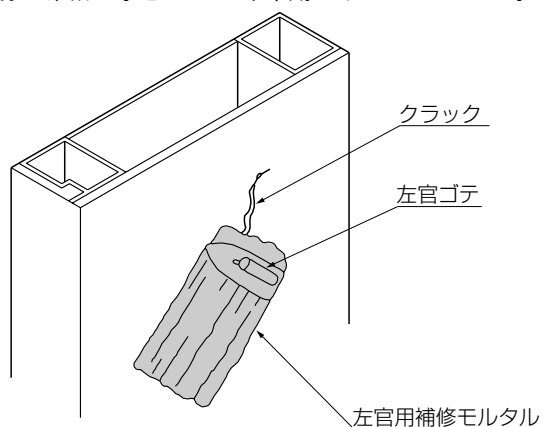
- 前面パネルの裏面や支柱内部にラスシート固定用のテクスネジがでています。搬入や施工時にけがをしないように注意してください。
- ラスモルタルの端部にラスシートの角波垂鉛鉄板がでている場合があります。搬入や施工時にけがをしないように注意してください。
- 搬入や施工時の運搬は「カド打ち」に注意してください。尚、ワイドラスコートシャッターは移動式クレーン（ユニック含む）での施工になります。
- 現場で保管する場合は下地モルタル面に重いものをのせないでください。また、雨等が予想される場合は全体をシート等で覆ってください。

ゆびに注意 ※テクスネジやエッジ部に注意してください。



5-1 下地

- ① 側壁や門袖の立て込み後、すぐに仕上げをしない場合は通常雨にぬれても問題ありませんが、建築仕上塗材で仕上げる前や凍結が予想される寒冷期は下地モルタルに水がかからないようにシート等で覆ってください。



✎ 補足

- 輸送や搬入、施工時に下地モルタル面にクラックが入った場合は市販の「左官用補修モルタル」ですり込むように塗り付け、表面に段差がないように補修してください。
- 下地のまま仕上げをしないで放置するのは30日以内にしてください。また、それ以内であっても下地表面がほこり等で汚れる場合があります。仕上げ施工をする前は必ず汚れを落としてください。

